

SHOW HEY シネマールーム

★★★

オンリー・ザ・ブレイブ

2017年/アメリカ映画

配給：ギャガ/134分

2018 (平成30) 年6月23日鑑賞

TOHOシネマズ西宮OS

Data

監督：ジョセフ・コシンスキー

出演：ジョシュ・ブローリン/マイルズ・テラー/ジェームズ・バッジ・デール/ジェフ・ブリッジス/テイラー・キッチュ/ジュニア・コネリー

■ショートコメント■

◆“実話に基づく物語”は多いが、本作は2013年にアリゾナで起きた巨大な山火事に立ち向かった森林火災消防隊のエリート「ホットショット」に結集した英雄たち20名の物語。アメリカの消防士は2011年の9.11テロでの活躍と、そこでの犠牲者の多さで有名になったが、その後はこれが最大の犠牲者を出した山火事らしい。

「ホットショット」に認定されるには相当な能力を要求されるそうだが、隊長のエリック・マーシュ（ジョシュ・ブローリン）がそれを目指すのは、一体なぜ？

◆日本では大規模な山火事は少ないが、広大なアメリカではなぜかそれが頻繁に起きるらしい。しかして、その消火方法は？また、その避難方法は？それは本作を見てると少しだけわかるが、空から飛行機で水をばらまくのはホントに効果があるの？

本作の主人公はエリックだが、もう1人の主人公になるのは、少し出来の悪い若者ブレンダン・マクドナウ（マイルズ・テラー）。前半ではそんなブレンダンが心を入れ替えて「ホットショット」の隊員になろうと懸命の努力を続ける姿が描かれるから、本作はある意味『スパイ・ゲーム』（01年）（『シネマ1』23頁）と同じような、“師弟モノ”の面も・・・。

◆常に死と隣り合わせの山火事消化に挑む若者たちにもそれぞれ家族があり、恋人がいるが、若くて体力とエネルギーにあふれる若者たちの集団は荒っぽいだけでなく、いつもエロ話でいっぱい。そんなバカ話に夢になる若者だからこそ、命がけで働くことの代償はただ名誉だけという山火事消化の任務に挑むのだが、努力の末に「ホットショット」の認定を授けられると大喜び。

それはエリックはもちろん、ブレンダンも同じだった。そして、認定後の彼らの任務遂行はしばらくの間は順調だったが・・・。

◆本作中盤では彼らの訓練風景が何度も映し出されるが、山火事に巻き込まれた際、火の

嵐の通過を待つ方法は、1人1人が防火シートをかぶって地面に寝転がることらしい。しかし、そんな原始的な方法で強烈な火の嵐の通過に耐えられるの？

本作ラストのクライマックスは2013年にアリゾナ州で起きた現実の山火事の消火にエリックたちが挑むシークエンスになるが、その結末は？『アラモ』(04年)、『シネマ6』112頁)では、アラモの砦に結集した200人足らずのテキサス州の義勇軍は、進撃してきた大量のメキシコ軍の前に全員壮絶な最期をとげたが、さて、想定外に広がった大山火事の進撃の前に、ブレンダンを除く19名の隊員たちの命運は・・・？

2018(平成30)年6月26日記